

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 80

2024年5月発行

4月に障害福祉サービスの大きな報酬改定がありました。当法人は、放課後等デイサービス事業と相談支援事業（障害児相談支援）の2つの事業だけで、報酬改定に伴う事業内容の変更などは行っていませんが、請求のための対応に追われてバタバタとしています。報酬がどのように改定されようが、事業内容は、自分たちが最善と思う取り組みを続けていくだけですが、放課後等デイサービス事業の請求の仕方がややこしくなり、現場は混乱しています。相談支援事業の方は、特に大きな影響はありませんでしたが、保護者から、利用している放課後等デイサービスの事業形態が変わって戸惑う相談がありました。保護者の声を聴きながら、複雑な思いがしました。

当法人の放課後等デイサービス事業は、昨年度、7年ぶりに常勤スタッフの退職があり、4月から新しいスタッフ体制で事業運営をしています。新しいスタッフたちがベテランぞろいだったこともあり、子どもがスタッフに慣れるのも心配したよりも早く、チームワーク良くスタートすることができました。ただ、スタッフ交代による活動内容の見直しが報酬改定の影響でなかなかできず、5月に入ってようやく保護者や本人へのニーズ調査を開始したところです。より良い活動に繋がっていきたいと思います。

いろんな困難が次々とやってきますが、自身の良いところも悪いところも受け入れて、いろんなことを乗り越え遣り過ごし、1日1日、一歩いっぽ歩んでいくのは、事業も人生も同じだと思います。そして、そこに繋がる人たちが居てくれることも同じです。いろんな人に支えられ助けられて歩んでいます。昨年からそのことを強く感じています。一緒に活動してきた法人会員たちに感謝しています。4月に入ってすぐに、ご近所の方々が次々と賛助会費を持って来てくださいました。私たちを支えてくださる地域の方々や賛助会員の方々の思いをしっかりと受けとめて活動していきたいと改めて思っています。

これからも、揺らぎ揺らぎ悩み悩みいこうと思います。したいことはまだまだたくさんあります。どこまで行けるかわかりませんが、大変な時もいろんな人と繋がり合えることに感謝しながら歩いていこうと思います。「ほうぷ」は今年、20周年を迎えます。

(地域生活サポートネットほうぷ 向井裕子)

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

年明けから春まで、大規模なイベントの開催などは控えて、日々の活動は丁寧にといい耐えながらの運営でした。これまで積み上げてきた「ほうぷ商店」などの開催はできましたが、清水フェスティバルへの子ども参加は中止し、法人会員での参加としました。

1月には七草粥作りや凧揚げ、2月は車いすバスケットの観戦、3月には卒業進級パーティを開催し、中学校に進学する子どものワタシミライワークショップを開催しました。小学校の先生とご家族、友達がいろんな意見を出してくれましたが、何より、本人が自分の意見をしっかりと出していたのが印象的なワークショップとなりました。本人の感想に、「自分で気づけなかったいろんな自分のことが分かってよかった」とあり、本当に成長を感じた時間でした。

4月は、子どもたちの進学や進級、新しい1年生の利用開始、新職員の入職など、新しいことがたくさんあり、新たな気持ちで再出発です。



保護者交流会

1月20日(土) 13:30~15:30 参加者:保護者 6名
社会人ボランティア 4名

当法人の会員10名のうち、半数以上が「母」です。障害児の母たちもいます。子育ては思い通りにはいかないもの。福祉や教育のプロとてそれは同じ。皆それぞれに悩んだり試行錯誤したりしながら子育てをしてきました。今回は、発達障害のある高校3年生の子どもを育てている会員が、これまでの育児を振り返りながら話をしました。子ども本人も話をしてくれました。その後、参加者と法人会員とが2グループに分かれておしゃべりをしました。終了時刻になっても話がつきませんでした。参加者は多くありませんでしたが、また、このような機会を作ってほしいと皆さんが言ってくださいました。

<参加者の感想より>

☆ 実体験をうかがえる機会は貴重でありがたいです。

- ・ 選択肢を知ることの大切さ
- ・ 自己決定
- ・ 学校や周囲とのかかわり方
- ・ 親と子、それぞれ居場所や相談できる人

頭ではわかっているけど、自分の中で止めてしまい、行動に移せないことが多々あるなど気づかされました。子どもの力を奪わないためにも自身の行動を改めていきたいと思います。

☆ 貴重なお話をありがとうございました。どうやったらあんなにポジティブな子になるんだろうと



思って、話を聞いてました。息子もあんな18歳にならないかな、あんなふう育てたいなと思いました(いつも日々、イライラしています)。子どもがほうぷみみたいな居場所があるように、私たちにもほっとする場所、このような交流会が必要だと思いました。

- ◇ 今日は参加させていただいて本当に良かったです。障害の特性に関係なく、良い時間、そして光も見えました。
- ◇ 他の保護者の方とお話をする機会がないので、楽しかったです。子どもを思う親の気持ちは、皆一緒だなと感じさせられ、皆さん頑張っておられるので、励まされました。
- ◇ 本人のやりたいこと、好きなことをたくさんしてもらえる環境をつくっていきたくと思いました。そのためには、親の情報収集がポイントだと改めて思います。そのためにも、いろんな人とつながっていきたくと強く感じました。
- ◇ 子どもの思いを大切に、サポートをしていきたくと思います。高校受検するかどうか、こういうところがあると一緒に探しながら、本人はどうしたいのかを考えられるようにしていきたくと思いました。

ほうぷ商店

1月 27日(土) 参加者：子ども 11名 学生ボランティア 4名

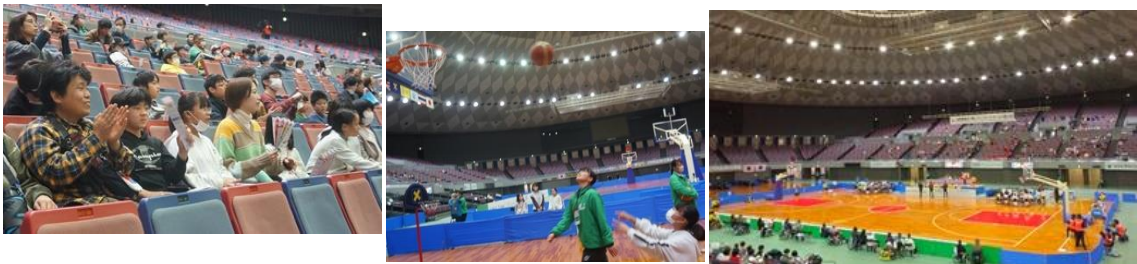
ほうぷ商店の開店は回を重ねて、客足も安定して地域に定着してきた感じがします。チラシを小学生に渡した時、「ほうぷ商店や！やったー」という子もいて、地域の子どもに浸透してきたようにも思います。今回は、室内に休憩スペースを作りました。親子連れや小学生のグループがのんびりとおしゃべりをしていました。次回は集う場としても会場の配置や内容を検討していきたくと思っています。



車いすバスケットボール大阪大会に行こう

2月 17日(土) 参加者：子ども 11名 学生ボランティア 4名

Asueアリーナ大阪に国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会を観に行きました。会場では、車いすバスケットの体験もできました。日本対タイの迫力ある試合を観戦しました。短い時間でしたが、貴重な体験をすることができました。



音楽鑑賞会

2月 24日(土) 参加者：子ども 7名 ボランティア 4名

旭区民センターに大阪府立市岡高校吹奏楽部OB・OG定期演奏会を聴きに行きました。徒歩で、グループごとに会場に向かいましたが、到着がバラバラになってしまい、反省の多い企画になりました。成長してきた子どもたちに助けられた活動になりました。生の演奏を聴く機会は多くはないので、子どもたちにとってはこれも貴重な体験となりました。

<こどもの日記より>

きょうはすいそうがくぶのおんがくを見た。とても音が大きくて大はくりよかったです。

きゅうけい時間に帰ることになりとてもざんねんだった。また見に行きたい。

<ボランティアの感想より>

- ・ 子どもたちとおしゃべりしながら、楽しく歩いて行くことができた。途中、迷子になりかけた時も「この道はここにつながってるから大丈夫!」とかいろんな道を知っていて頼もしかった。演奏中は静かに聞けていて、拍手したり「～が良かった」と楽しそうにしていた。「conductorって何?」といろんなことに疑問を持ちながら関心を持って聞いていてよかった。
- ・ 会場について紙をもらって、プログラムに興味津々な様子だった。演奏を聴いて、アンケートの演目のとなりに◎や△を書いて楽しんでた。演奏中に友だちに話しかけられて、2人が話そうとしてしまっていたので、少し「静かに」と注意する場面があった。センターから出るときに「今日も楽しかったなー」と言っていてよかったなと思った。



卒業進級パーティ

3月 23日(土) 参加者：子ども 13名 学生ボランティア 4名

今回のパーティは、発表会のような形式ではなく、みんなで一緒に楽しむことのできる内容にしました。グループワークで子どもたちに意見を出してもらい、企画をして一緒に準備をしました。ダンス発表、クイズ大会、射的大会に映画鑑賞、最後はおかしパーティーで乾杯しました。



避難訓練（地震想定）

4月 20日（土） 参加者：子ども 9名 ボランティア 1名

地震想定避難訓練をしました。『地震が起きた時どうするの？』クイズ形式で学んだ後、実際にヘルメットをかぶって清水小学校まで歩いて避難しました。途中、危険だなど思う場所を話しながら歩き、戻ってから共有しました。



おやこひろばほうふ

一昨年度から始めた「おやこひろばほうふ」。昨年度は、若い音楽療法士さんと音楽療法を学ぶ学生さんたちが中心となり、音楽を親子で楽しむ広場をつくってくれました。毎回、プログラムを考えて、振り返りもして、頑張ってくれました。最後には、法人会員の助産師が、保護者にむけての絵本の読み聞かせをしました。子育て中のご家族が、親子でほっこり楽しい時間を過ごしていただければと願いながら運営しています。

<運営メンバーの感想>

- ・最初はドキドキしていた子ども、ニコニコで帰っていくことがうれしく感じました。音楽をしたり、親御さん同士でお話をしたり、集まってくださった人たちが楽しくほっとできる場にできていたらいなと思います。（中野幸音）
- ・どんな場になるか、最初は探り探りでしたが、回を重ねるごとに、気張らず気楽にゆるっとした温かい場になっていったのかなと感じます。笑顔や驚いた顔、参加してくださった方々の個性豊かな表情や反応に毎回、心躍らせていました。（那須美咲希）
- ・楽器をもって嬉しそうに鳴らす姿や、曲に合わせて楽しそうに動いている姿がかわいくて心に残っています。また、幅広い年代での交流する場は温かいなと感じました。（奥村千華）
- ・ドキドキ顔でやってきた小さいお友だちも、のほほん、ほんわか優しい音色と語らいの中で、毎回みんなの笑顔であふれました。音楽で生まれる小さな出会い、繋がりを感じた広場でした。（今村千晶）

2024年度予定

開催日：6月9日（日）、9月1日（日）、12月1日（日）

時間：10時半～12時 参加費：無料

申込み：06-6953-2665（お電話ください）

「音楽で遊ぼう 作って遊ぼう」をテーマに、自然物を使った工作をしたり、音楽遊びをしたりする予定です

● 法人内の活動報告 ●

- 1月19日(金) ほうぷよるカフェ
- 2月16日(金) ほうぷよるカフェ
- 2月24日(土) 独立型社会福祉士実践報告会受講(オンライン)
- 3月 3日(日) 清水フェスティバル参加(清水小学校)
- 3月15日(金) ほうぷよるカフェ
- 3月23日(金) 法人臨時総会(ほうぷ)
- 3月28日(木) 虐待防止委員会(ほうぷ)
- 4月12日(金) 感覚統合遊具点検&使用方法確認
- 4月20日(土) 避難経路確認



● 地域活動報告 ●

- 1月14日(日) おやこひろば ほうぷ「おんがくひろば」(ほうぷ)
研修講師「子どもと居場所」(オンライン)
- 1月16日(火) ブックスタート(ほうぷ)
- 1月17日(水) 旭区地域自立支援協議会 本会定例会(旭区役所)
地域活動協議会福祉部会
- 1月20日(土) 子ども情報研究センター理事会
- 1月23日(火) 旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会(児童)
- 1月24日(水) 神戸松蔭女子学院大学初等教育ゲストスピーカー
- 1月26日(金) 地域活動協議会世代間交流イベント(清水地域交流センター)
- 2月13日(火) 旭区地域自立支援協議会 こども部会(旭区役所)
- 2月14日(水) 地域活動協議会清水フェスティバル打合せ
- 2月21日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会(旭区役所)
- 2月22日(木) 旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会(児童) 防災研修会
- 2月23日(金) 子ども情報研究センター理事会(オンライン)
- 3月 1日(金) 旭区子育て支援「あさひの輪」定例会(旭区社会福祉協議会)
- 3月 7日(木) 旭区子育て支援キッズネット定例会(旭区民センター)
- 3月12日(火) ブックスタート(ほうぷ)
- 3月14日(木) 旭区地域自立支援協議会 本会定例会(旭区役所)
- 3月15日(金) 子ども情報研究センター理事会(オンライン)
- 4月17日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会(旭区役所)
- 4月20日(土) 子ども情報研究センター理事会
- 4月23日(火) NPO 法人 WING 路をはこぶ新入職員研修講師

5月の連休に中学高校の同級生と一緒に帰省をしました。彼女は両親の墓参り。すでに実家はありません。私は90歳の父と母の墓参りをしました。故郷は帰るところではなく、訪問するところになってきた私たちですが、お堀の中の高校とその後ろの久松山や袋川にかかる鯉のぼりなどを眺めて、懐かしい思いに浸りました。海の青と山の緑にほっとしたひと時でした。(む)

